

・Q1：地下かんがい実施の判断は？

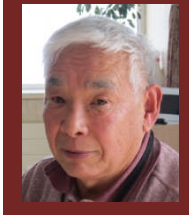
・播種後晴天が長く続き発芽不良が想定されるときなど、干ばつ対策が必要と判断されるとき

・Q2：給水回数、時間は？

・回数～2～3回、時間～24時間入水。

・Q3：給水手順は？

- ①ねじ式・たて型水甲を止める（たて型水甲の水位調整穴は一番上だけ開ける）
- ②給水開始（適時）※給水量の目安…管理孔柵流入管の水深2～3cm（人差し指第1関節）
- ③止水…目視にてほ場の20～25%が湿るまで（給水開始から1日程度）
- ④ねじ式水甲は常に閉めたまま、たて型水甲を開放し排水 ⇒ ⑤完了



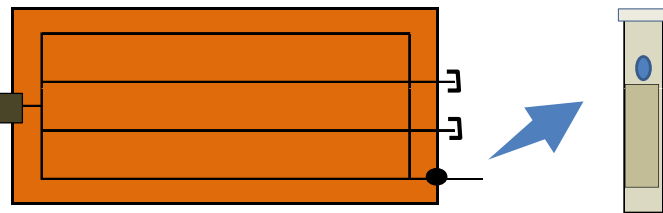
2日間以上根より上まで水分を与えると、根腐れが発生するよ。



タイムスケジュール



給水量の目安



・Q4：目標地下水位と確認方法は？

・ほ場面の20～25%が湿っているのが目視にて確認できる程度を目標としている。

・Q5：地下かんがいの効果は？

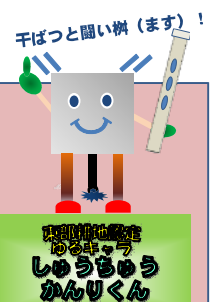
・芽の生え揃えが良かった。（特に、暗渠配水管の周辺）

・Q6：地下かんがいで注意すべき点は？

・用水路（パイプライン）から集中管理柵への流入水量の監視が必要です。同一管水路の利用状況により、水栓の開閉状態が一定でも水の入りが変わってしまい溢れてしまうこともあるため、用水の利用状況確認を電話等でお互いに行う必要があります。

メモ

- ・作付土壌は粘性土
- ・サブソイラは年1～2回、作付前に実施
- ・暗渠管の洗浄は、用水停止後の秋口に水甲を全閉し、地下水を貯めてから開放させている。その際、鉄分を含んだ泥水の流下を確認できる。



■作物～水稻(乾直) ■面積～2.2ha

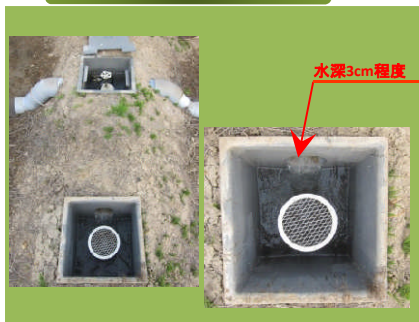
実践者：奈井江町高島 (有秋桜 (鈴木一男さん))



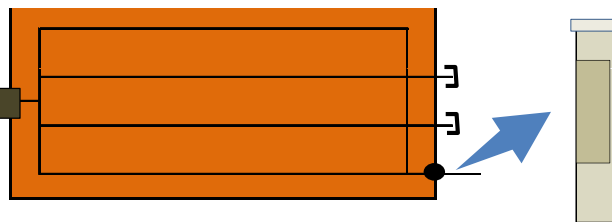
- ・Q1：地下かんがい実施の判断は？
- ・播種から出芽までの時期に実施。
- ・Q2：給水回数、時間は？
- ・回数～5回、時間～連続2日～3日間。
- ・Q3：給水手順は？

- ①ねじ式・たて型水甲を止める(たて水甲の水位調整穴も閉じる)
- ②給水開始 ※給水量の目安…分水柵から管理孔柵につながるφ150塩ビ管内の水深で3cm程度
- ③ほ場表面まで水位上昇が確認されるまで給水継続(2～3日)
- ④止水…水甲は全て閉じたまま
- ⑤出芽までほ場状態を観察し、給水を繰り返す。その後も天候(日照り)に応じて地下かんがい利用する。

給水量の目安



タイムスケジュール



- ・Q4：目標地下水位と確認方法は？
- ・目標水位は、ほ場田面+1～10cm程度。ほ場表面の状態を確認を行っています。

- ・Q5：効果はありましたか？
- ・播種後の入水では、地下かんがい利用によって、種子流失を少なくできました。

- ・Q6：失敗したことは？
- ・入水量が多いと、枕地(暗渠管上流部)で滞水します。



- ・Q7：地下かんがいのポイントは？
- ・サブソイラを密にかけていないと地下水位が上がりづらいので、作付前までに必ず実施。(斜め方向で2.5m程度間隔・0.3～0.4m深さで実施…暗渠管に直交するとトラクターがはまりやすい)
- ・入水量が多いと滞水するため、入水量に注意が必要。

メモ

- ・作付土壌は泥炭土
- ・中干し及び秋口の水抜きで全ての水甲を開き、暗渠管の洗浄を兼ねている。



■作物～水稻(乾直) ■面積～2.2ha

実践者：奈井江町高島 (有秋桜 (鈴木一男さん))



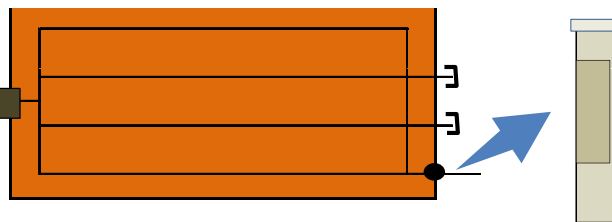
- ・Q1：地下かんがい実施の判断は？
- ・播種から出芽までの時期に実施。
- ・Q2：給水回数、時間は？
- ・回数～5回、時間～連続2日～3日間。
- ・Q3：給水手順は？

- ①ねじ式・たて型水甲を止める(たて水甲の水位調整穴も閉じる)
- ②給水開始 ※給水量の目安…分水柵から管理孔柵につながるφ150塩ビ管内の水深で3cm程度
- ③ほ場表面まで水位上昇が確認されるまで給水継続(2～3日)
- ④止水…水甲は全て閉じたまま
- ⑤出芽までほ場状態を観察し、給水を繰り返す。その後も天候(日照り)に応じて地下かんがい利用する。

給水量の目安



タイムスケジュール



- ・Q4：目標地下水位と確認方法は？
- ・目標水位は、ほ場田面+1～10cm程度。ほ場表面の状態を確認を行っています。

- ・Q5：効果はありましたか？
- ・播種後の入水では、地下かんがい利用によって、種子流失を少なくできました。

- ・Q6：失敗したことは？
- ・入水量が多いと、枕地(暗渠管上流部)で滞水します。



- ・Q7：地下かんがいのポイントは？
- ・サブソイラを密にかけていないと地下水位が上がりづらいので、作付前までに必ず実施。(斜め方向で2.5m程度間隔・0.3～0.4m深さで実施…暗渠管に直交するとトラクターがはまりやすい)
- ・入水量が多いと滞水するため、入水量に注意が必要。

メモ

- ・作付土壌は泥炭土
- ・中干し及び秋口の水抜きで全ての水甲を開き、暗渠管の洗浄を兼ねている。





・Q1：地下かんがい実施の判断は？

・出芽前(6月上旬)に実施・・・土中水分を一定に保ち出芽を促進

・Q2：給水回数、時間は？

・回数～出芽状態及び天候(日照り)に応じて実施
 ・時間～2日～3日の給水

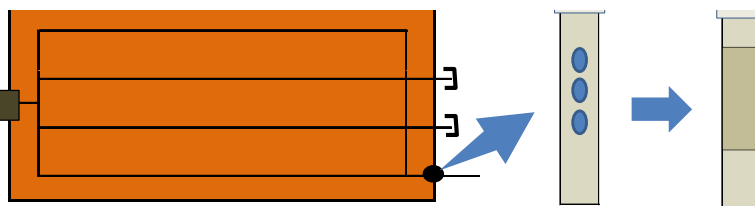
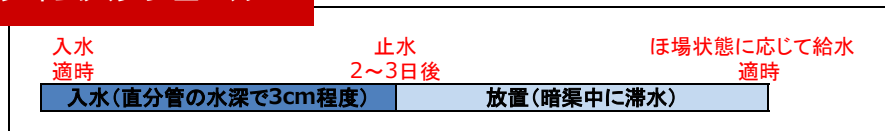
・Q3：給水手順は？

- ①ねじ式・たて型水甲を止める(たて水甲の水位調整穴も閉じる)
- ②給水開始 ※給水量の目安・・・分水柵から管理孔柵につながるφ150塩ビ管内の水深で3cm程度
- ③ほ場表面まで水位上昇が確認されるまで給水継続(2～3日)
- ④止水・・・水甲は全て閉じたまま
- ⑤出芽までほ場状態を観察し、必要に応じて給水を繰り返す。

給水量の目安



タイムスケジュール



・Q4：目標地下水位と確認方法は？

・目標水位は、ほ場田面－10cm程度。ほ場表面の状態を確認を行っています。

・Q5：効果はありましたか？

・土中水分をある程度一定に保つことができた。

・Q6：失敗したことは？

・入水量が多いと、枕地(暗渠管上流部)で滞水します。



・Q7：地下かんがいのポイントは？

- ・サブソイラを密にかけていないと地下水位が上がりづらいので、作付前までに必ず実施。(斜め方向で2.5m程度間隔・0.3～0.4m深さで実施・・・暗渠管に直交するとトラクターがはまりやすい)
- ・入水量が多いと滞水するため、入水量に注意が必要。

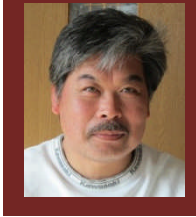
・メモ

- ・作付土壌は泥炭土
- ・秋口の水抜きで全ての水甲を開き、暗渠管の洗浄を兼ねている。



■作物～水稻(乾直) ■面積～3.4ha

実践者：奈井江町高島 大関 光敏さん



・Q1：地下かんがい実施の判断は？

- ・播種から出芽までの時期に実施。
- ・出穂後、直分水と地下かんがいを併用し水管理を行っている。

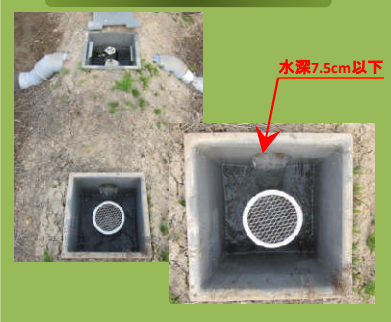
・Q2：給水回数、時間は？

- ・回数～適時、時間～2～3日

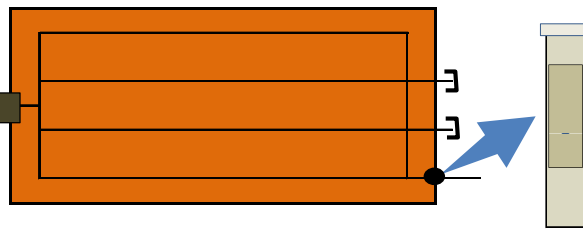
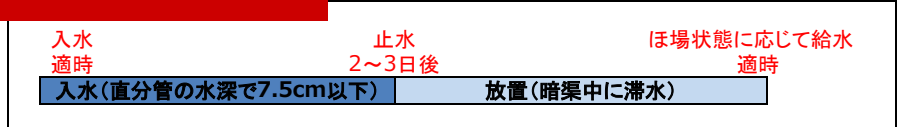
・Q3：給水手順は？

- ①ねじ式・たて型水甲を止める(水位調整孔は全閉)
- ②入水開始・・・給水量の目安…直分管(φ150塩ビ管)半分以下の水深。
- ③止 水・・・ほ場表面まで水位上昇が確認された後(2日～3日)止水する。
- ④ねじ式・たて型水甲は閉めたまま、ほ場の様子を観察しながら給水を継続する。

入水量の目安



タイムスケジュール



・Q4：目標地下水位と確認方法は？

- ・目標水位はほ場田面+3cm。ほ場表面の状態を確認を行っています。

・Q5：効果はありましたか？

- ・地温、水温管理が行いやすい。

・Q6：今後の課題は？

- ・工事の際、水位調整孔の位置がほ場によってばらつきがあり管理しづらいので明確にしてほしい。



・Q7：地下かんがいのポイントは？

- ・サブソイラを細めかけないと地下水位が上がりづらいので播種前には必ず実施。(斜め方向で2.0m間隔・0.3m～0.4mで実施)※暗渠に直交するとトラクターがはまるため。

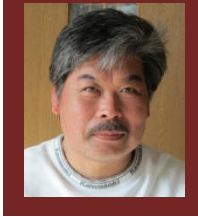
メモ

- ・作付土壌は泥炭土
- ・中干し及び秋口の水抜きで全ての水甲を開き、暗渠管の洗浄を兼ねている。
- ・地下かんがいが利用できるほ場がなければ乾田直播の実施は困難。



■作物～小麦 ■面積～2.0ha

実践者：奈井江町高島 大関 光敏さん



・Q1：地下かんがい実施の判断は？

- ・追肥後(起生後・幼穂形成期・止葉期)に天気が続くときに実施。
- ・干ばつの時期

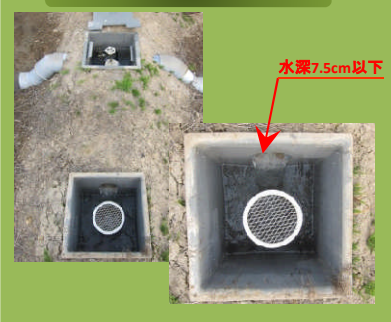
・Q2：給水回数、時間は？

- ・回数～追肥後で3回、干ばつ時期に適回数

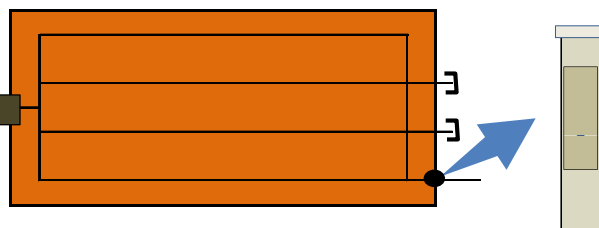
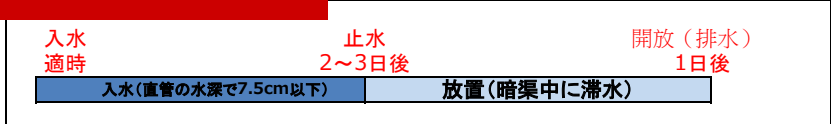
・Q3：給水手順は？

- ①ねじ式・たて型水甲を止める(水位調整孔は全閉)
- ②入水開始・・・給水量の目安…直分管(φ150塩ビ管)半分以下の水深。
- ③止 水・・・ほ場表面まで水位上昇が確認された後(2日～3日)止水して1日置く。
- ④ねじ式水甲は閉めたまま、たて型水甲を開放し排水。 ⇒ ⑤完了

入水量の目安



タイムスケジュール



・Q4：目標地下水位と確認方法は？

- ・目標水位はほ場田面-10cm。ほ場表面の状態を確認を行っています。

・Q5：効果はありましたか？

- ・干ばつ対策、追肥効果(肥料分をほ場全体に行き渡らせる)がありました。

・Q6：失敗したことは？

- ・入水量を多くすると、枕地を中心に滞水します。



・Q7：地下かんがいのポイントは？

- ・サブソイラを細めにつけないと地下水位が上がりづらいので播種前には必ず実施。(斜め方向で2.0m間隔・0.3m～0.4mで実施)※暗渠に直交するとトラクターがはまるため。

メモ

- ・作付土壌は泥炭土
- ・中干し及び秋口の水抜きで全ての水甲を開き、暗渠管の洗浄を兼ねている。
- ・小麦の品種は水に強い「きたほなみ」。ほ場表面に水があっても問題ない。

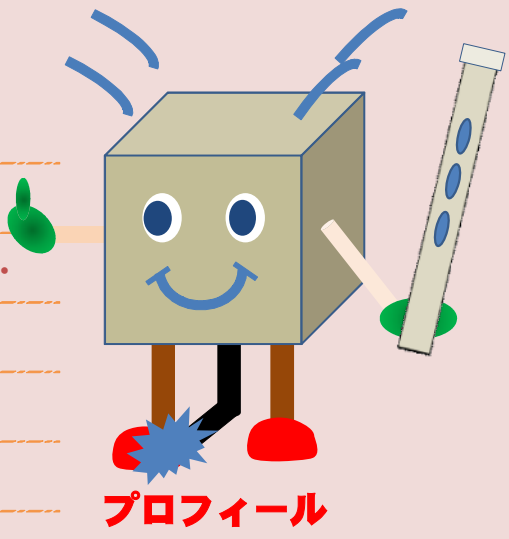


- ・用 地 係 知野係長
- ・工事第1係 関根係長（部会長）、山下主任（班長）
- ・工事第2係 木村主任
- ・工事第3係 伊藤主任、木澤主任
- ・工事第4係 野々村主任
- ・工事第5係 田邊主任

おわりに（PRキャラクター紹介）

もろち
東部耕地認定ゆるキャラ
しゅう
ちゅう **かんい**くん
 ～干ばつと闘い樹（ます）！～

生まれ	美唄市開発
年 齢	平成7年生まれ
性 格	人に頼まれたらイヤとは言えない・・・
好きな食べ物	とりめし
好きな飲み物	水（用水路の水）
特 徴	雨にも負けず、干ばつにも負けず
口 癖	〇〇でござい樹（ます）
友 達	暗渠排水
敵	ヒテーリー
特 技	あなたの詰まり解消し樹（ます）！
キャッチフレーズ	干ばつと闘い樹（ます）！



プロフィール